

	文	献	目	録	
		落	穂	拾	い

婦人問題文献目録（第2分冊）図書
部Ⅱ 大正期・昭和戦前期編 1983年刊
（第1分冊・明治期編 1980年刊）

第2分冊の編集で印象に残っているのは、乙部資料を漁ったことである。小冊子、地方出版、自費出版といった雑多なものが集まる乙部資料は別置されていてあまり利用に供せられないことがないが、その中からも関係資料を採録しようということからであった。森閑とした書庫の一隅で、ある時は烏が鳴きかわす上野図書館で、傷みかけた本を一冊一冊手にしていく作業であったが、いくつかの興味ある資料に出会えた時は一人でいる心細さを忘れたものだった。今でも忘れ難いそんな資料の一、二を紹介しよう。

大正11年刊行の『貧女の一灯』（松本恒吉編・刊）という小冊子がある。第3回国際労働総会に政府代表顧問として列席した埼玉県の主婦松本もと子の報告書である。政労使各総会代表は各議題につき二人以内の顧問を伴えるが、婦人に関する問題が審議される時は顧問のうち一人は婦人でなければならぬという規程がある。第3回総会の中心議題は農業労働で、そこでは婦人の保護問題も審議された。松本もと子はこの審議に参加。外務省刊行の総会報告書を見ると、日本では農業における婦人の長期契約賃労働者の少ないこと、その労働の手易なること、分娩の前後に長期間休養をとる慣習のな

いことを挙げ、目下の日本では実行は困難と政府側意見を代弁している。すでに工業労働における婦人保護問題は第1回総会で審議され、わが国ではそこへの婦人代表選出をめぐっては摩擦があったが、それに次ぐ第3回総会への婦人代表がどういう経緯で選ばれ、どんな考えをもって審議に臨んだか。かの女の果たした役割はわが国農村婦人にとってどうであったか。この小冊子の刊行はどんな意味をもつのか。何故彼女の夫松本恒吉編・刊によるのか。興味をひかれる。

第2分冊では女子生理学の分野も採録した。この分野で目立った人に羽太鋭治がいる。著書の多さに加えその中の何冊かが版を重ねているという点で先ず目立つ。興に乗じて調べていくと、明治末から昭和初期にかけて小石川や神田で性病医を開業した人であった。かなり知られた人のようで評伝もある。それによればかれの評価は悪い。およそ医者らしからぬ生地そのままをさらけ出した人で、誤解されることも多かったようだ。かれの著述は昭和期に入るにつれ学問的・教育的ではなく享樂的な面が強くなり、やがて訴訟問題をおこして自殺してしまう。この晩年を評してある人は「彼は金のため位のために猪突したのである。宗教を忘れ、哲学を忘れ、ひたすら濁世に横行した」と言う。しかし、その著書の何冊かが版を重ね世に受け入れられているのを知るとき、当時の婦人たちにはどう読まれていたか、性教育史上どんな役割を果たしたのか。山宣の生涯と比べながらその業績を辿ってみたい思いもするのである。

（経済社会課 森崎富喜）